

未然防止

全教師がいじめや不登校問題の重要性を認識し、いじめや不登校の早期発見に努める。

- 平素から生徒と接する機会や場を多くし、温かい人間関係を築く。
- 生徒の言動や表情をすばやく察知し、全職員の共通理解、共通実践に努める。
- どんな小さな事例でも、学級活動や生徒会活動を使って考えさせ、生徒の自浄作用力を育てる。
- 校外の様子については保護者、地域住民、外部機関との緊密な連携を図り、情報の入手に努める。

↓ (そのために)

- ・ 日常の「朝の会、帰りの会」、「学級活動」「道徳」「教育相談」などの充実を図る。
- ・ 出欠の点検や健康観察を適切に行う。
- ・ 授業、休憩時間、放課後等の生徒の動向を的確に把握する。  
(休憩時間や放課後等の校内、校外巡視)
- ・ 教科担任、部活動顧問、養護教諭等、心の教育相談員と学級担任、学年部との連携を密にする。  
(生徒指導委員会の定期的な開催、保健室利用カードの活用)
- ・ 家庭や地域住民、外部機関との連携を図る。(家庭訪問、記録簿の活用)



[学校で分かるいじめ早期発見チェック]  
 ※ 学校楽しいーと、いじめアンケート、  
 教育相談、スクールカウンセラーなど

[家庭で分かるいじめ・不登校問題  
 早期発見 チェック]  
 ※ チェックシート別紙参照

[ 早 期 発 見 ]



緊急対策

- 事実を的確に把握する。  
(いじめや不登校の実態を的確に調査する)
- 問題の共有及び共通実践のために、連絡、相談、報告を確実に実践する。  
(校長、教頭、生徒指導主任、学級担任の連携を緊密に図る)
- 迅速に対応する。  
(迅速に対応するとともに保護者と対応について共通理解する)
- いじめの再発と不登校を防止するための指導法の工夫・改善に努める。

↓ (そのために)

- ・ いじめられた生徒や不登校で悩む生徒の心の支えになる。  
(いじめられたと主張した生徒や不登校傾向の生徒の気持ちを第一に尊重する)
- ・ いじめられた生徒の成長を促す工夫をする。  
(本人の長所に気づかせ、自信を持たせる)
- ・ いじめた生徒に対しても言い分を聞き、辛抱強く指導する。  
(受容する態度で接しながら、「いじめ」は許さないということを強く指導する)
- ・ 不登校の原因の解消に努める。(共感する態度で接しながら、個々の原因について究明し、慎重に対応する)
- ・ 傍観者をつくらないため、学級(学年)での指導を工夫する。  
(生徒がいつでも、どこでも相談できる雰囲気の日頃からつくっておく)  
(問題を明らかにし、温かく包み込む学級集団づくりに努める。)

# いじめ及び不登校問題に対する組織的な取組

